



構成 (五十音順)

■パネリスト

西村 勇也 (NPO法人ミラツク 代表理事)

藤田 壮 (国立環境研究所社会環境システム研究センター センター長)

吉岡 初浩 (愛知県高浜市長)

■領域アドバイザー

大和田 順子 (認定NPO法人JKSK女性の活力を社会の活力に 理事長／
一般社団法人ロハス・ビジネス・アライアンス 共同代表)

後藤 和子 (摂南大学経済学部 教授)

村上 清明 (株式会社三菱総合研究所 研究理事)

■進行: 大守 隆 (領域総括)



進め方

■前半(テーマ1)

多世代共創の事例を踏まえて (40分程度)

■後半(テーマ2)

時代背景と本領域への期待 (35分程度)

■フロアからのご質問・ご意見への対応 (10分程度)

- ▶ 受付時に配布した用紙をお使い下さい。
パネル前半終了時まで適宜、スタッフにお渡し下さい。
- ▶ 挙手によるご質問・ご意見も時間が許す限りお受けします。



テーマ1 多世代共創の事例を踏まえて

- ▶ 有識者3名より話題提供(各7分)
 - 西村氏:多世代共創事例調査の結果について
 - 藤田氏:福島県での環境創生研究プログラムについて
 - 吉岡氏:自治体における問題意識について

- ▶ 領域アドバイザー3名から、
ご存じの多世代共創事例の紹介や、
有識者からの話題提供へのコメント(各3分以内)

- ▶ 自由討論(10分程度)



テーマ2 時代背景と本領域への期待

- ▶ 議論していただきたいこと
 - 多世代共創の必要性や期待の高まりの背景には、どのような要因が考えられるか？
 - 領域のリサーチ・クエスチョンの回答や、「これまでに分かったこと」をどのようにご覧になったか？
付け加えるべき点、違和感のある点などはないか？
 - 本領域（マネジメント側、既採択プロジェクト、これから応募しようとする方々）に対して、どのような期待をお持ちでしょうか？
- ▶ その参考として、まず「求めたい研究開発テーマ」（例示、暫定版）を紹介
- ▶ 有識者、領域アドバイザーの順にコメント（各3分以内）
- ▶ 自由討論（10分程度）

求めたい研究開発テーマ(例示、暫定版)

- これまでに採択したPJ及び企画調査ではあまりカバーされていない分野の中で、
- 多世代共創の効果がありそうなテーマとしてマネジメントが考えた例。

しかし、あくまで例示であって
他の提案も大いに歓迎しますし
これらに即した提案の優先度が高いわけでもない。

現段階の暫定案であって、最終的には、募集要項で
確認してください。

※募集要項は、後日、RISTEXのホームページに掲載します。

求めたい研究開発テーマ(例示、暫定版)

<一般枠＝従来型の研究開発PJ>


◇予算規模：1課題 数百万円～30百万円以下／年

◇期 間：原則として3年間

(平成28年10月～平成31年9月)

◇要件

- 多世代共創
- 持続可能な都市・地域
- 研究開発の要素
- 社会実装の可能性




求めたいテーマ(例示、暫定版)

例G-① 老朽化した集合住宅における 多世代共創の可能性に関する研究

高度経済成長を経て全国展開された集合住宅や分譲住宅などの高密度地域では、老朽化、高齢化、少子化に加えて貧困の問題も生じており、地方の過疎地域との共通性もみられるようになった。

このような現状を改善する上で多世代共創がどのように役立ち得るか、また、どのようにすれば有効な多世代共創を実現できるかを目指すような研究。



求めたいテーマ(例示、暫定版)

例G-② 多世代共創による公共施設マネジメントの改善

平成28年度までに、全ての自治体に公会計に発生主義・複式簿記が導入されることで、これまでの「資産」と考えてきたインフラ・公共施設が、将来にわたる維持管理・更新費用を想定すると「負債」となる可能性がある。

特に、基礎自治体におけるインフラ・公共施設マネジメントのあり方が問われているが、多世代共創によってこの問題を解決しようとする研究。

求めたいテーマ(例示、暫定版)

例G-③ 都市と農山漁村の交流を通じた 多世代共創の可能性と含意

近年、農林漁業や農山漁村の暮らしに興味を持つ若い世代が増え、地域おこし協力隊などを通じ、農山漁村にUIターンする若者が増えているが、まだまだ中山間地域の農林業や伝統的な漁業のノウハウや生活文化が引き継がれているとは言いがたく、全国各地で里山・里海の荒廃が進んでいる。

一方で都市部の若い世代の雇用不安は高まっている。
また、こうした中山間地域の問題と、食糧やエネルギー自給率の低い都市部の課題を都市農村交流や、多世代共創の手法で解決することはできないか、という問題意識に応える研究。



求めたいテーマ(例示、暫定版)

例G-④ 旧企業城下町の維持・再生における 多世代共創の可能性と含意

経済構造の変化に伴って地域を支えてきた大企業が廃業することも稀ではなくなってきた。

企業を中心とする経済循環や社会関係資本がなくなることは、地域社会を存続の危機に陥れかねない。

こうした状況を多世代共創の手法を活用して打開することはできないか、という研究。

求めたいテーマ(例示、暫定版)

例Gー⑤ 芸術を通じた多世代共創の可能性と含意

芸術の中には音楽や美術のように世代や人種を超えたコミュニケーション媒体となっている一方で、民族によって好みが異なる傾向の見られるものもある。

日本では世界中の芸術が親しまれているが、世代間の分断もある程度みられる。

こうした普遍性と多様性を、多世代共創の求心力として生かすことが可能ではないか、そしてそのことが、持続可能性に関する諸問題の解決に貢献し得るのではないかという問題意識に基づく研究。

日本古来の、書道、茶道、吟道などに関する提案も歓迎。

求めたいテーマ(例示、暫定版)

例Gー⑥ Well-beingの成長を促す産業の創出

環境と調和しながら、多世代・多様な人々の生きがいや心の豊かさが持続的に成長していくためには、利便性や物質的な豊かさを追求した従来の製品やサービスとは違った、新しい産業が創出されることも重要である。

地域の様々な資源や技術をも活用しながら多世代・多様な人々が共創するためのプラットフォームの構築や人材育成、多世代共創によるレトロハイブリッドな製品開発などを通して、Well-beingの成長を促す産業創出の可能性を追求する研究。

*レトロハイブリッド：懐かしさを感じさせるが機能はハイテクで強化されているもの、レトロとハイテクのハイブリッド



一般型に加えて俯瞰・横断枠を検討中

- ▶ 従来型の一般枠に加えて俯瞰・横断枠を設定する方向で検討中

- 特定の地域をフィールドとしない代わりに、
幅広い視野をもっていたり

- 多世代交流・共創の経験の効果などの実証分析を目指すもの

- 社会実装を必ずしも求めないが制度改革などへの含意を持つもの

- 領域全体のとりまとめに役立つもの

- ◇予算規模：1課題 上限1000万円

- ◇期 間：1年間（平成28年10月～平成29年9月）

- ※ 終了時に評価を実施し、領域マネジメントグループと共に
領域成果を取り纏める上で継続が有効と判断したプロジェクト
については、最大2年延長することがある。


求めたいテーマ(例示、暫定版)

例C-① 多世代共創事例の調査・分析

持続可能な地域社会に結びつきそうな多世代共創事例を様々な分野で収集し、

多世代共創が有効と思われる問題や、交流や共創をしやすい世代、成功・失敗要因等を分析する。

領域としてのリサーチ・クエスチョンの解を考える上で参考となる知見を創出する研究。



求めたいテーマ(例示、暫定版)

例C-② 年齢差別の撤廃と多世代共創

欧米諸国では、年金支給年齢を引き上げる一方で定年を撤廃する動きや、採用において年齢・性別を聞かないことが広がっている。

しかし、日本では、いまだに年齢による差別が許容されている。その理由を解明するとともに、どのような変更が可能なのか、また変更した場合どのような多世代共創の可能性が開けるのか、

そしてそれは持続可能性に関する諸問題にどのように貢献するのかといった問題意識に応えようとする提案。



テーマ2 時代背景と本領域への期待

- ▶ 議論していただきたいこと
 - 多世代共創の必要性や期待の高まりの背景には、どのような要因が考えられるか？
 - 領域のリサーチ・クエスチョンの回答や、「これまでに分かったこと」をどのようにご覧になったか？
付け加えるべき点、違和感のある点などはないか？
 - 本領域（マネジメント側、既採択プロジェクト、これから応募しようとする方々）に対して、どのような期待をお持ちでしょうか？
- ▶ その参考として、まず「求めたい研究開発テーマ」（例示、暫定版）を紹介
- ▶ 有識者、領域アドバイザーの順にコメント（各3分以内）
- ▶ 自由討論（10分程度）

「平成28年度提案募集に向けて」

「持続可能な多世代共創社会のデザイン」
研究開発領域公開シンポジウム

「多世代共創による持続可能な地域社会の実現に向けて」

領域総括 大守 隆

2016年3月1日(火)、 東京都コクヨホール





募集・選考を振り返って

- ▶ 平成26年度：「多世代共創」や「研究開発と社会実装」との関係が必ずしも明確でないものが少なくなかった。
- ▶ 平成27年度：
 - 募集に向けての取り組み：
 - ・ 領域コンセプトのブラッシュアップ
 - ・ 領域としてのリサーチ・クエスチョンの設定
 - ・ 参加者公募型のワークショップを石巻と東京で開催
 - ・ 二段階選考方式、企画調査としての提案枠を導入 など
 - 結果：
 - ・ 第1回目に比べ、領域のコンセプトに沿った提案が多かった。
 - ・ 領域の目指す方向で各所で様々な試みがなされていると感じた。
 - 課題：
 - ・ 研究を通じて何を明らかにしようとしているかが明確でない。
→ 各提案のリサーチ・クエスチョンは何か？

28年度募集に向けてのメッセージ

- ▶ 前述のように、従来型の一般枠に加えて俯瞰・横断枠の設定を検討中
- ▶ 一般枠、俯瞰・横断枠ともに、「求めたい研究開発テーマ」は、

あくまで例示であって

他の提案も大いに歓迎しますし

これらに即した提案の優先度が高いわけでもない。

ただし、既採択の8PJとの類似性が高いかどうかは
審査の一つのポイント。

今日議論の参考として供したものは

あくまで現段階のイメージであって、

最終的には、募集要項で確認してください。



28年度募集に向けてのメッセージ

- ▶ 従来型(仮称一般枠)では**審査でも採択後も**以下の5点にこだわります
 - 多世代共創
 - 持続可能な都市・地域
 - 研究開発の要素
 - 社会実装の可能性
 - 育む価値・可能性